

観察日： 月 日 曜日 観察者()

時 分	小分類コード				備考
	1	2	3	4	
:30					
:31					
:32					
:33					
:34					
:35					
:36					
:37					
:38					
:39					
:40					
:41					
:42					
:43					
:44					81

観察日： 月 日 曜日 観察者()

時 分	小分類コード				備考
	1	2	3	4	
:45					
:46					
:47					
:48					
:49					
:50					
:51					
:52					
:53					
:54					
:55					
:56					
:57					
:58					
:59					82

調査概要

本調査は、茨城県の某地域中核病院で行われた医師の勤務状況調査である。同病院に勤務する医師（常勤・非常勤）に調査表を配布し、2007年3月28日および29日に調査（自計式タイムスタディ）を実施した。調査内容は、年齢、性別、卒業年次、診療科、家族構成、勤務状況などである。勤務時間に関しては、7つの勤務内容（外来診療、入院診療、自己研修、教育、研究、休憩、その他）のそれぞれに費やした時間を尋ねた。

調査結果

調査票は医師 100 名に配布され、98 名から回答を得た。参加者の特徴と勤務時間について報告する。

1. 参加者の特徴

年齢 36.9 歳（標準偏差 8.9） 最年少 25 歳 ・ 最年長 62 歳

性別 男性 82 人（83.7%） 女性 16 人（16.3%）

雇用形態 常勤 94 人（95.9%） 非常勤 4 人（4.1%）

役職
 初期臨床研修医 9 人（9.3%）
 管理職（医長以上） 40 人（41.2%）
 管理職以外のスタッフ 42 人（43.3%）
 その他 6 人（6.2%）

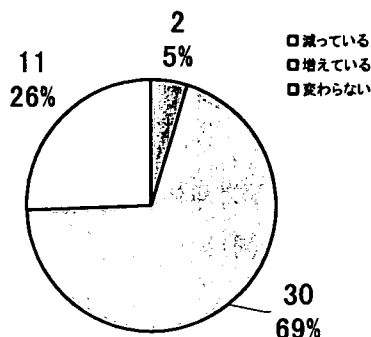
診療科
 内科 32 人 外科 35 人
 小児科 6 人 産婦人科 9 人（全員が分娩取り扱い）
 放射線科 4 人 麻酔科 2 人
 精神科 0 人 病理 0 人
 その他 10 人（眼科、歯科、耳鼻咽喉科、新生児科、皮膚科、泌尿器科、臨床研修医） → 分析時には各該当診療科としてまとめた

家族構成

独身 38 人 配偶者有 56 人
 要介護の家族あり 3 人 中学生以下の子供あり 38 人
 夫婦共働き 29 人（うち、一方がフルタイム 13 人 パートタイム 16 人）

3 年以上勤務している医師 44 人（46.3%）

→ このうち、3 年前とくらべた
 業務負担量は



増えている	67.7%
変わらない	27.3%
減っている	5.0%

2. 勤務時間

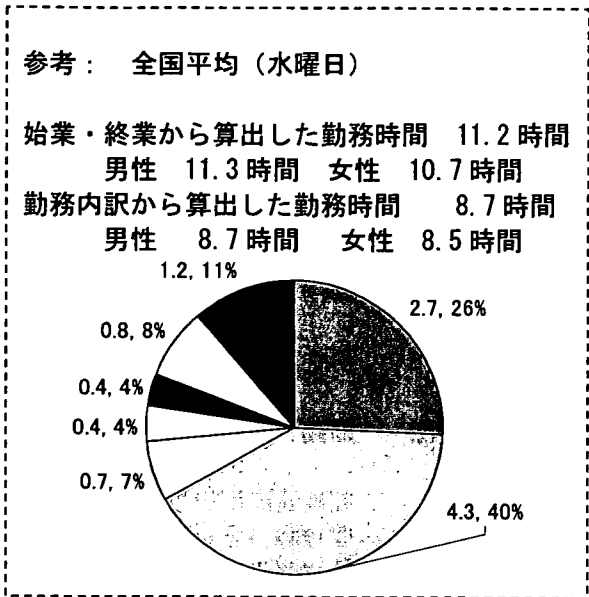
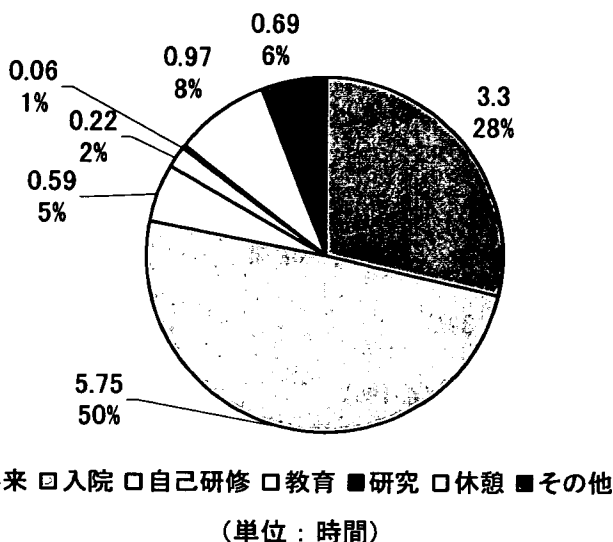
3月28日(水)

始業・終業時間から算出した勤務時間

平均勤務時間 12.2 時間 (標準偏差 3.5)
 男性 12.2 時間 (3.2) 女性 12.6 時間 (4.8)

勤務内訳時間の合計から算出した勤務時間

平均勤務時間 11.6 時間 (標準偏差 3.5)
 男性 11.5 時間 (3.2) 女性 12.0 時間 (4.5)



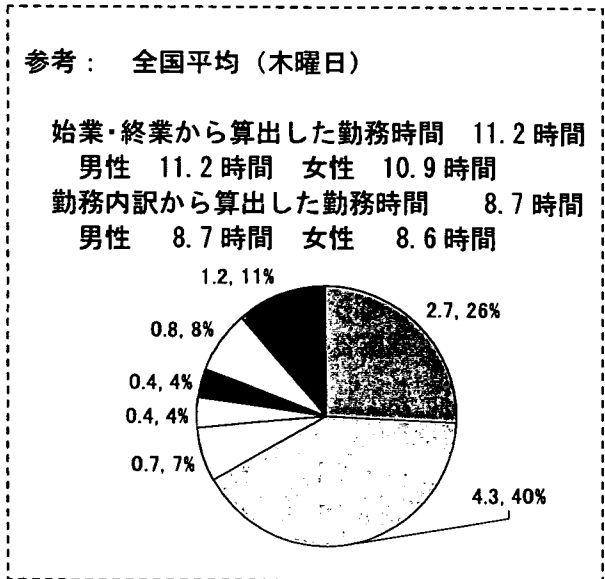
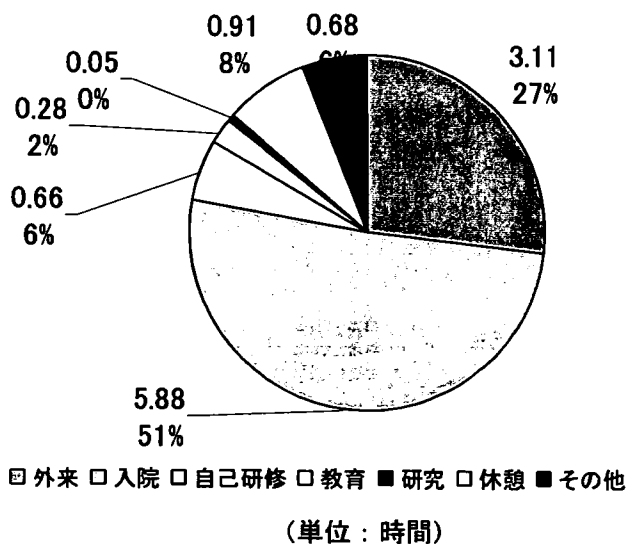
3月29日(木)

始業・終業時間から算出した勤務時間

平均勤務時間 11.8 時間 (標準偏差 3.6)
 男性 11.9 時間 (3.7) 女性 10.9 時間 (3.1)

勤務内訳時間の合計から算出した勤務時間

平均勤務時間 11.6 時間 (標準偏差 3.4)
 男性 11.6 時間 (3.4) 女性 11.2 時間 (3.4)



資料10

3. 受け持ち患者数

	3月28日(水)	3月29日(木)
外来	19.1人	16.2人
入院 受け持ち	10.4人	10.4人
うち診察	10.6人	10.6人
うち退院	0.8人	0.4人

参考：全国平均 (人)		
	水	木
外来	17.7	16.9
入院 受け持ち	12.8	13.0
うち診察	12.5	12.3
うち退院	0.5	0.5

4. On-call と当直

On-call あり 26人 (29.2%) なし 63人 (70.8%) 無回答 11名

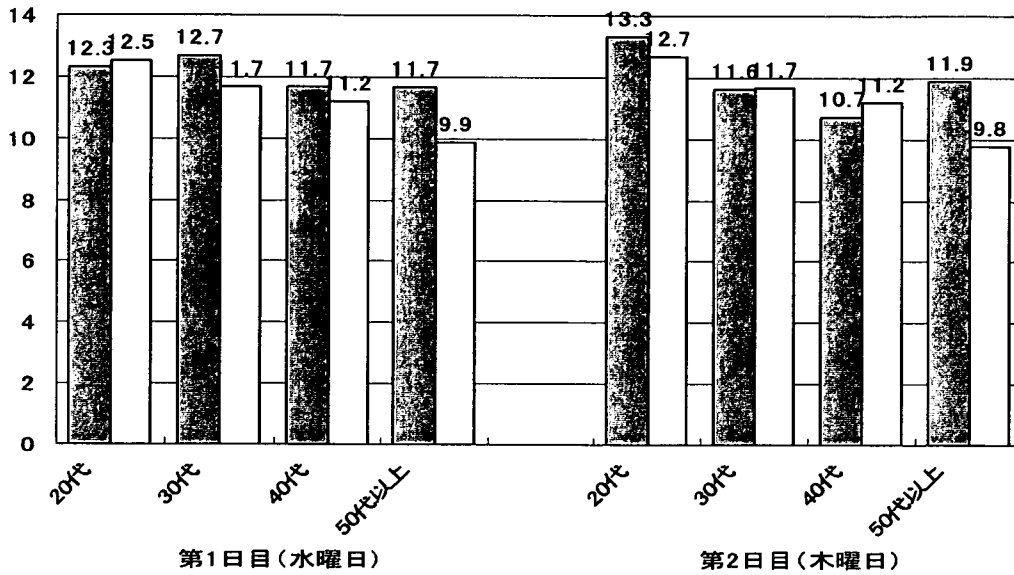
当直担当 3人

参考：On-call 全国平均 (%)	
水曜日：	27.9%

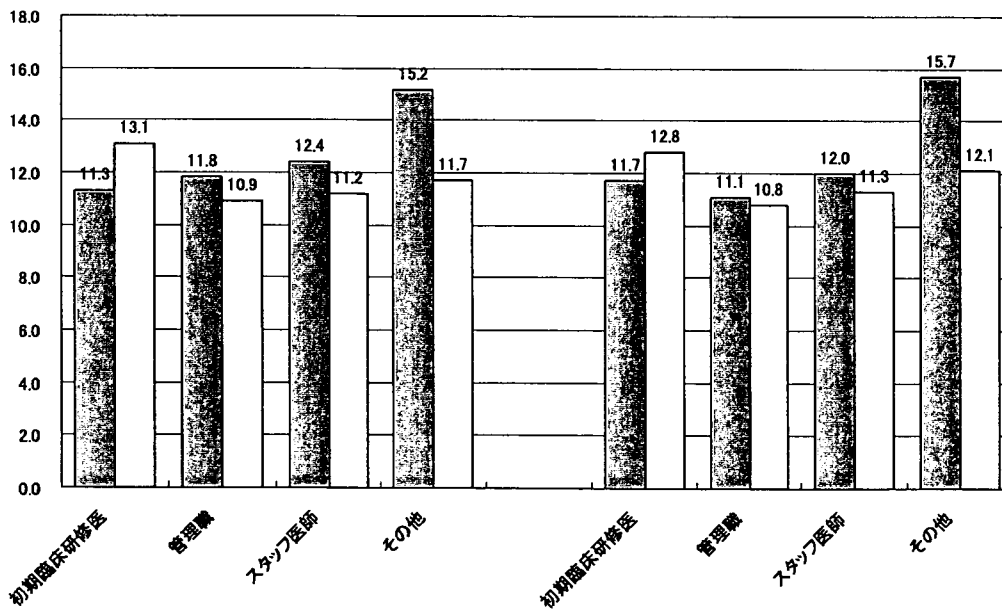
5. 勤務時間分析

タイムスタディにおいて、「常勤」と回答した94名の医師に関する勤務時間分析結果を示す。グラフ中、青色で示されるのが日立総合病院での結果である。参考として2005年11月～2006年1月にかけて実施された全国の病院を対象としたタイムスタディの結果を白色で示す。なお単位はすべて時間である。

(1) 年代別 勤務時間



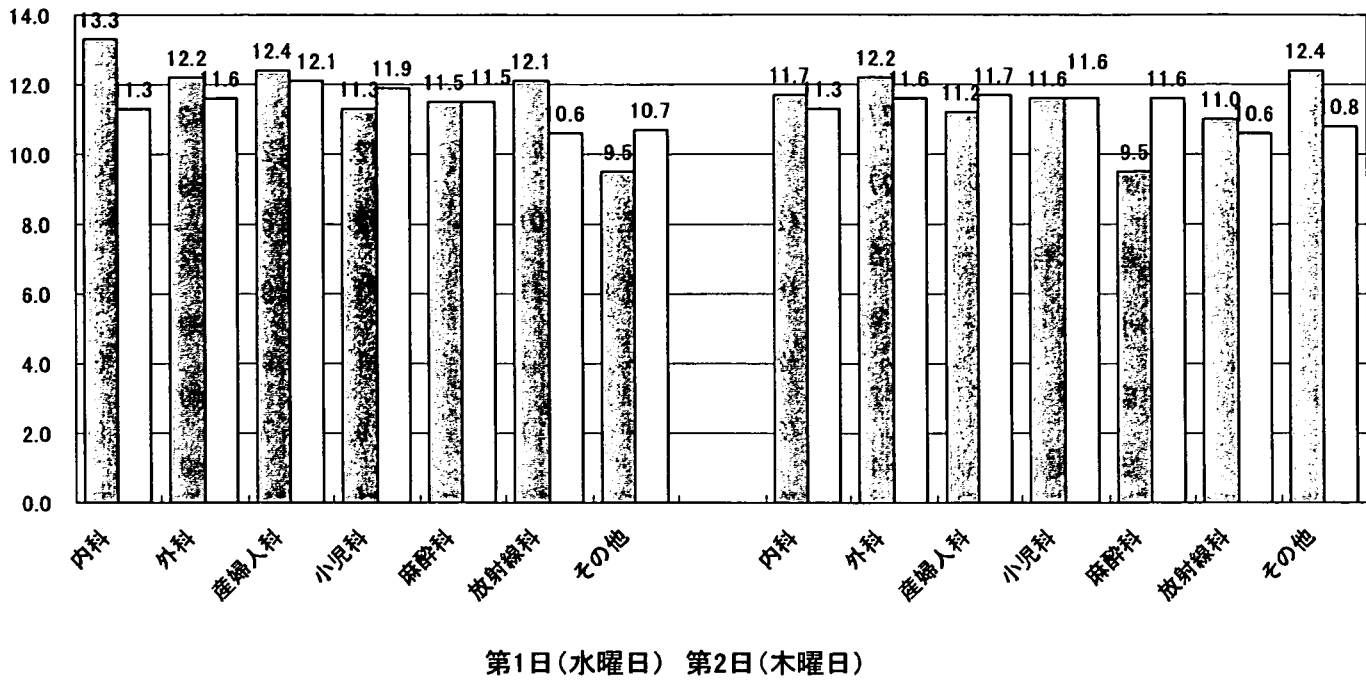
(2) 職位別 勤務時間



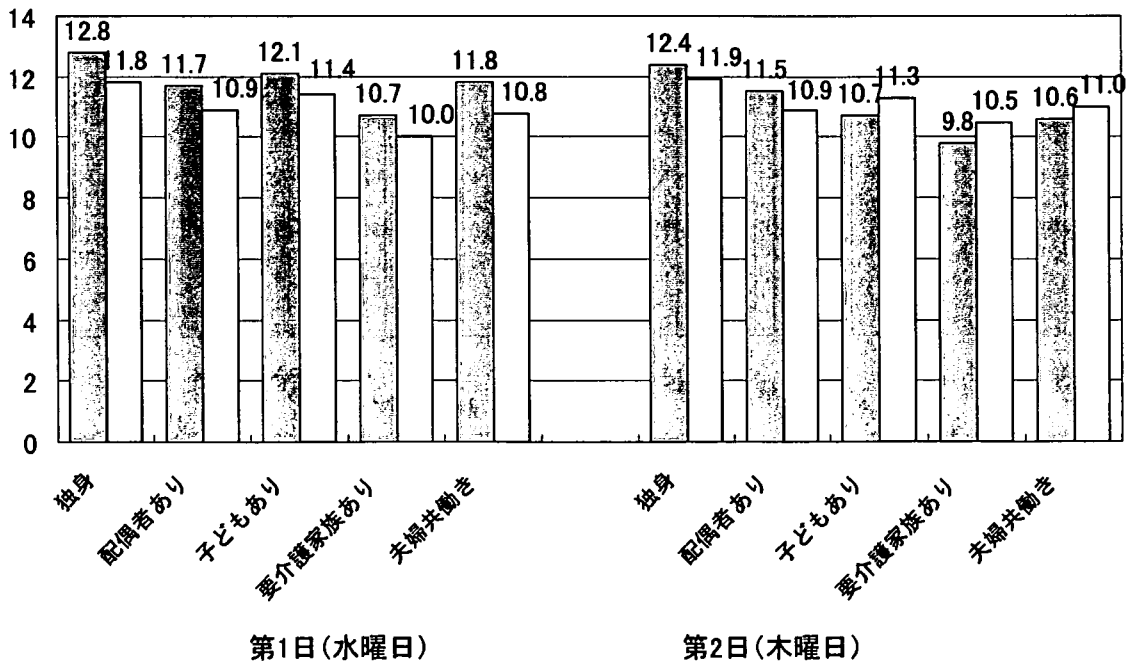
* その他に属する6人は、4人は後期臨床研修、1人は内科ローテーター

資料 10

(3) 診療科別 勤務時間



(4) 家族状況別 勤務時間

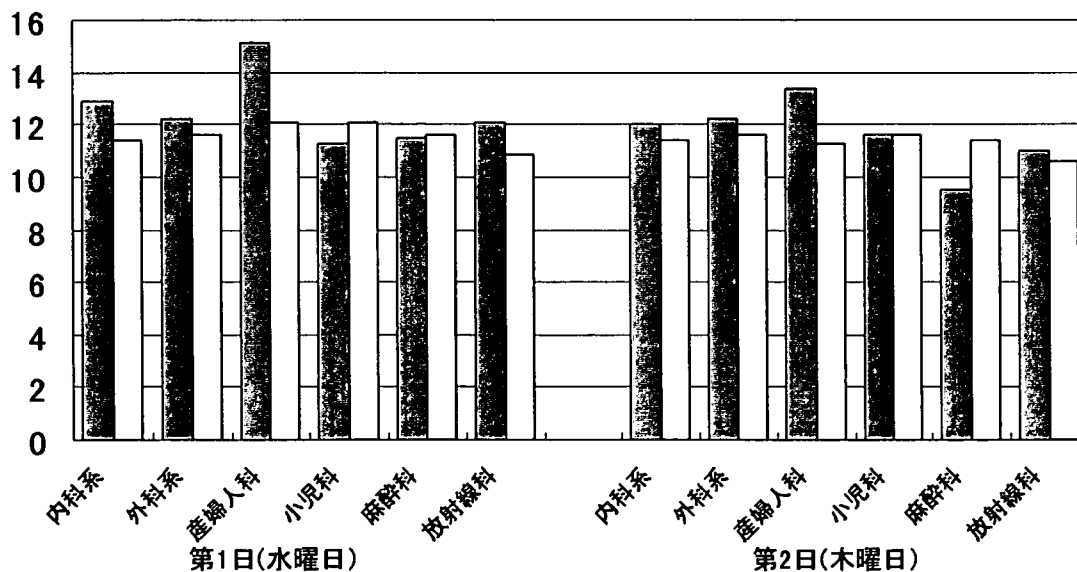


(5) 診療科別（大分類） 常勤医師の勤務時間

	調査 1 日目（水曜日）		調査 2 日目（木曜日）	
	男性	女性	男性	女性
内科	n=27 12.9 (4.0)	n=3 18.2 (7.7)	n=27 12.0 (3.2)	n=3 10.3 (1.6)
外科	n=27 12.2 (2.1)	n=8 12.2 (3.0)	n=27 12.2 (3.8)	n=8 12.2 (3.5)
産婦人科	n= 5 15.1 (5.1)	n=2 10.8 (1.1)	n=5 13.4 (6.0)	n=2 10.6 (0.2)
小児科	n= 6 11.3 (2.3)	n=0 - (-)	n=6 11.6 (1.9)	n=0 - (-)
麻酔科	n= 2 11.5 (2.1)	n=0 - (-)	n=2 9.5 (0.7)	n=0 - (-)
放射線科	n= 4 12.1 (0.3)	n=0 - (-)	n=4 11.0 (1.1)	n=0 - (-)

nは該当する人数
数字は1日の勤務時間、括弧内は標準偏差

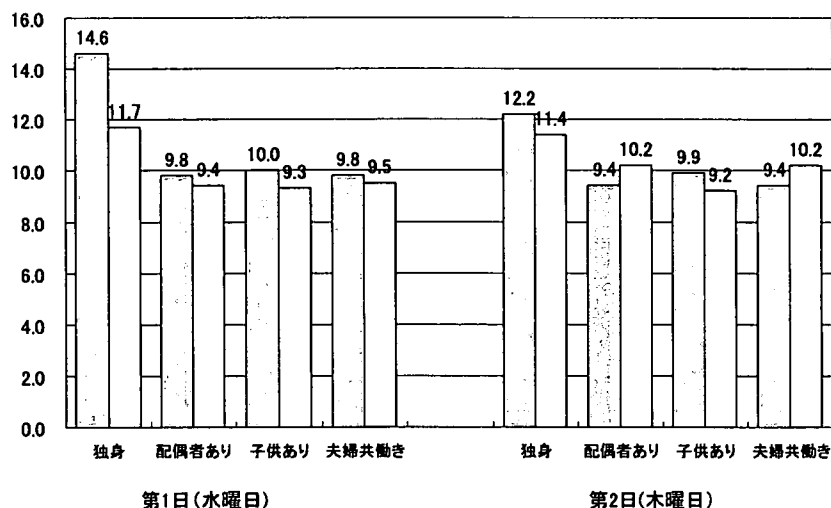
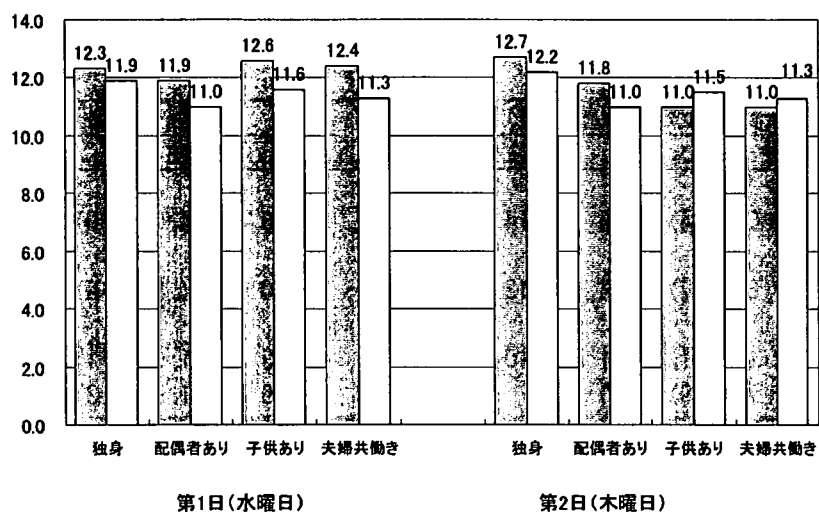
診療科別（大分類） 常勤医師の勤務時間（男性のみ）



(6) 家族分類別 常勤医師の勤務時間

	調査 1 日目 (水曜日)		調査 2 日目 (木曜日)	
	男性	女性	男性	女性
独身	n=25 12.3 (3.4)	n=10 14.6 (4.9)	n=25 12.7 (4.0)	n=10 12.2
(2.9) 配偶者あり	n=51 11.9 (2.8)	n= 4 9.8 (0.2)	n=51 11.8 (3.7)	n= 4 9.4
(1.3) 子どもあり ^{a)}	n=32 12.6 (3.6)	n= 5 10.0 (0.4)	n=32 11.0 (1.4)	n=5 9.9
(1.5) 夫婦共働き	n=24 12.4 (3.1)	n= 4 9.8 (0.2)	n=24 11.0 (1.5)	n= 4 9.4
(1.3)				

a) 中学生以下子ども
nは該当する人数、数字は1日の勤務時間、括弧内は標準偏差



(7) 勤務継続年数別 常勤医師の勤務時間

	調査 1 日目 (水曜日)		調査 2 日目 (木曜日)	
	男性	女性	男性	女性
調査実施病院に				
3 年未満勤務	n=36 12.6 (4.5)	n=12 13.2 (4.8)	n=36 13.1 (4.9)	n=12 11.0 (2.4)
3 年以上勤務	n=41 11.9 (1.8)	n= 2 13.5 (4.9)	n=41 11.1 (2.1)	n= 2 14.0 (5.0)
3 年以上勤務の者のうち、3 年前と比べた業務負担量は				
減っている	n=2 11.8 (0.4)	n=0 - (-)	n= 2 11.6 (3.4)	n=0 - (-)
増えている	n=28 12.1 (1.8)	n=2 13.5 (4.9)	n=28 11.4 (2.2)	n=2 14.0 (5.0)
変わらない	n=10 12.7 (4.6)	n=0 - (-)	n=10 10.2 (1.2)	n=0 - (-)

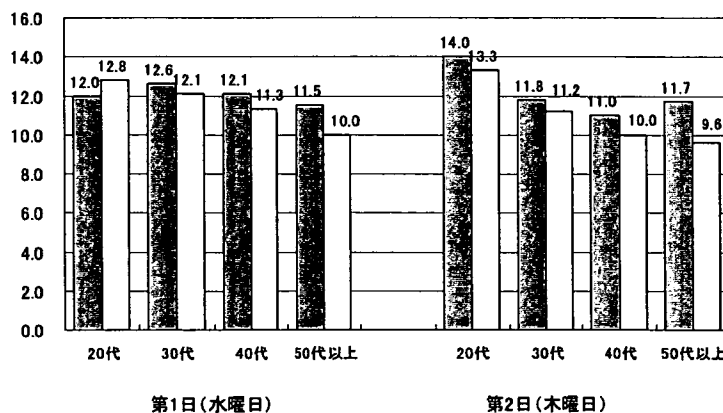
n は該当する人数
数字は 1 日の勤務時間、括弧内は標準偏差

(8) 年齢別常勤医師の勤務時間

	調査 1 日目 (水曜日)		調査 2 日目 (木曜日)	
	男性	女性	男性	女性
20 代	n=18 12.0 (3.4)	n=5 14.2 (5.1)	n=18 14.0 (5.0)	n=5 12.7
30 代	n=30 12.6 (2.5)	n=8 13.1 (4.8)	n=30 11.8 (3.9)	n=8 10.8
40 代	n=23 12.1 (2.1)	n=1 10.0 (-)	n=23 11.0 (2.1)	n=1 10.5 (-)
50 代以上	n= 9 11.7 (0.9)	n=0 -	n= 9 11.9 (2.3)	n=0 -

n は該当する人数
数字は 1 日の勤務時間、括弧内は標準偏差

男性の年齢階級別勤務時間



資料11 参考資料：医師需給に係る医師の勤務状況調査票

問1. 年齢 歳 性別 1. 男性 2. 女性

問2. 性 1. 男性 2. 女性

問3. 卒業年次 大正・昭和・平成 年

問4. 診療科

1. 内科系(科)	2. 外科系(科)
3. 産婦人科 (分娩取り扱い 有・無)	
4. 小児科	5. 精神科6. 麻酔科7. 病理
8. 放射線科	9. その他(科)

問5. 勤務は常勤ですか

1. はい 2. いいえ

* 常勤とは定められた勤務時間を通して勤務する方です

あなたのこの病院以外での勤務時間は1週間あたり何時間ですか

平均的な1週間	合計	時間

* 勤務先複数の場合はその合計とします

* 常勤の方も、他病院に支援で働いた時間を含みます

* あなたのこの病院での勤務時間は次ページでお尋ねします

問6. 役職

1. 初期臨床研修医	2. 管理職(医長以上)
3. 管理職以外のスタッフ医師	4. 研究員
5. 大学院生	6. その他()

問7. 家庭環境(複数回答可)

1. 独身	2. 配偶者あり	3. 要介護の家族有
4. 中学生以下の子供あり	5. 夫婦共働き	

配偶者の雇用形態は(共働きの場合のみ)

1. フルタイム	2. パートタイム
----------	-----------

この病院に3年以上勤務されていますか

はい・いいえ

裏面へ

問8.

勤務の負担は3年前と比較して

1. 減っている ・ 2. 増えている ・ 3. 変わらない

理由は (複数回答可)

1. 外来患者数の増加

2. 外来患者1人に費やす時間

3. 入院患者数の増加

4. 入院患者1人に費やす時間

5. 教育・指導

6. 病院内の診療外業務 (院内委員会活動・会費など)

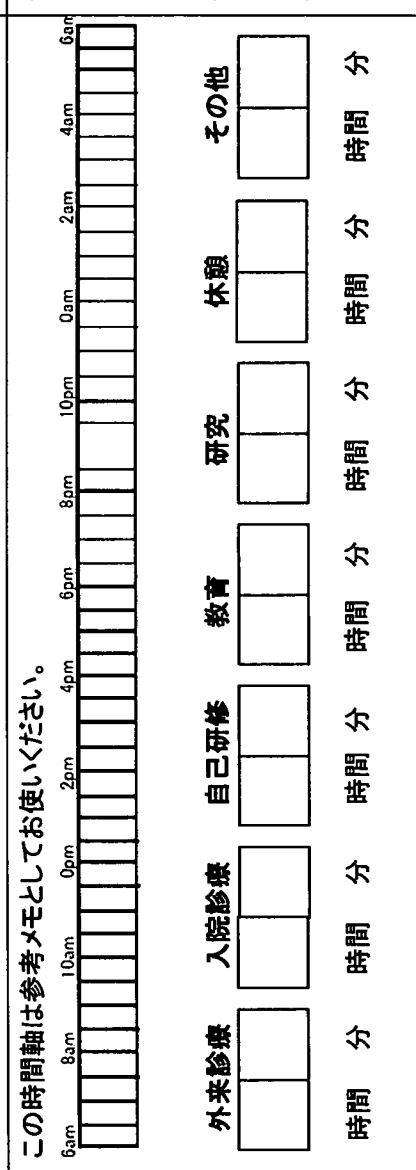
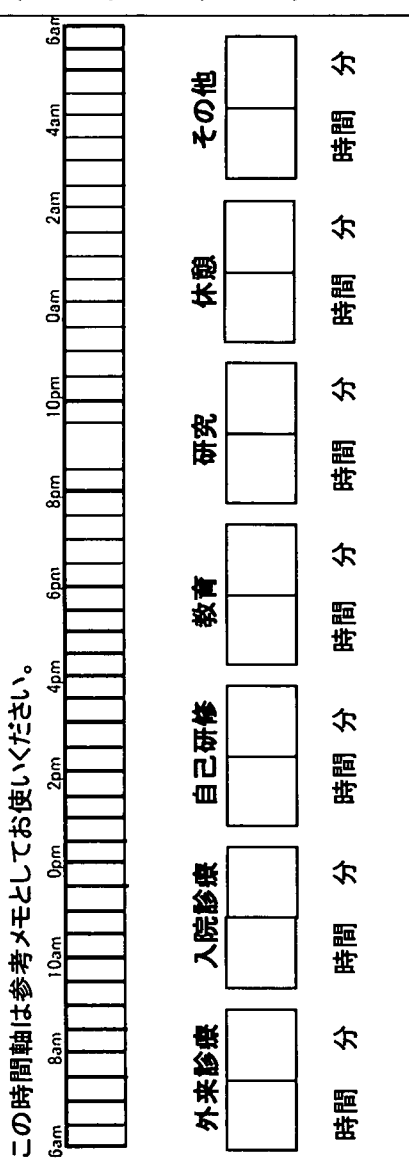
7. その他 ()

裏面へ

ご協力ありがとうございました。裏面のご記入もよろしくお願い致します。

問 9. あなたの病院における勤務時間と診察患者数についてうかがいます。

- ・ 各曜日それぞれの始業(登院)時間と終業(退院)時間をご記入ください。
- ・ 勤務時間について 1) 外来診療、2) 入院診療、3) 自己研修、4) 教育、5) 研究、6) 休憩、7) その他 の7つの勤務内容に費やした時間をお答えください。
- ・ 外来診療、入院診療、勤務内容内訳、診察患者数、On-Callの有無に関しては、記入ガイドをご参照ください。

日付	実際の始業・終業時間	勤務内容内訳	その日の 診療患者数	On- call
月 日 ()	休日 (1. はい・2. いいえ) 始業 AM <input type="text"/> 時 <input type="text"/> 分 PM <input type="text"/> 時 <input type="text"/> 分 終業 AM <input type="text"/> 時 <input type="text"/> 分 PM <input type="text"/> 時 <input type="text"/> 分 翌 AM	この時間軸は参考メモとしてお使いください。 	外来 <input type="text"/> 人 受持入院患者 <input type="text"/> 人 うち診察した患者 <input type="text"/> 人 うち退院した患者 <input type="text"/> 人	有 ・ 無
月 日 ()	休日 (1. はい・2. いいえ) 始業 AM <input type="text"/> 時 <input type="text"/> 分 PM <input type="text"/> 時 <input type="text"/> 分 終業 AM <input type="text"/> 時 <input type="text"/> 分 PM <input type="text"/> 時 <input type="text"/> 分 翌 AM	この時間軸は参考メモとしてお使いください。 	外来 <input type="text"/> 人 受持入院患者 <input type="text"/> 人 うち診察した患者 <input type="text"/> 人 うち退院した患者 <input type="text"/> 人	有 ・ 無

厚生労働科学研究費補助金特別研究事業
医師確保に資する医療機関内の環境改善に関する研究
分担研究報告書

新医師臨床研修制度導入後の医師のキャリアの変遷

分担研究者 梶井英治 自治医科大学地域医療学センター 教授

研究要旨：背景：新医師臨床研修制度の導入に伴い、医師自身のキャリアに対する考え方が大きく変わった。このことが地域医療に深刻な影響をもたらしている。これには実態を把握した上での対策が望まれる。目的：病院勤務医および後期研修医の勤務・研修病院選択理由ならびに将来の希望を明らかにする。方法：研究デザインは観察研究（質問紙調査）。病院勤務医はランダム抽出した 439 施設の常勤医師を、後期研修医はランダム抽出した 281 施設の卒後 3 年および 4 年目の研修医を対象とした。主な調査項目は、それぞれ、病院勤務医は勤務医療機関の選択理由・勤務内容・将来の希望で、後期研修医は後期研修医療機関の選択・診療科の選択理由・将来の希望であった。結果：病院勤務医については、132 施設（回答率 30.6%）から 1,714 名の回答があった。医療機関へは 56.5%が大学からの派遣で勤務していた。その一方で、42%が「派遣でない」と回答した。その選択理由は、実家に近い（11.5%）が最多で、以下、派遣（10.3%）、病院の施設・設備が充実（8.8%）、診療体制が充実（7.9%）、先輩等に誘われた（7.7%）の順で続いた。勤務内容は、勤務時間（1日）は「9～10時間」、勤務日数（1週間）は「6日」、当直回数（1ヶ月）は「3～4回」、昼食時間（1日）は「30分未満」がそれぞれ最多であった。将来については、47.7%が「引退するまで現在の医療機関に勤務したい」と回答した。勤務継続については、「分からない」が 35.8%と最多で、次いで「1年未満」と「1～2年」が 20.7%であった。後期研修医については、137 施設（回答率 48.8%）から 1,222 名の回答があった。研修先医療機関は、69.2%が大学病院以外の臨床研修指定病院であった。その理由は、症例が多い（50.9%）が最多で、次いで熱心な指導医がいる（23.7%）、指導体制が充実している（21.2%）の順であった。52.3%が臨床研修病院と異なる医療機関で後期研修を行っていた。異なる理由は、必要な症例・手技の経験数が不十分だった（22.6%）が最多であった。現在の専門診療科は、内科（17.5%）が最多で、次いで小児科（9.1%）、外科（7.8%）の順であった。その理由は、学問的に興味がある（72.6%）が最も多く、次いで、やりがいがある（69.5%）、いい指導医がいた（37.9%）の順であった。将来（15 年程度先）の希望診療科の回答割合は現在の診療科とほぼ同じであった。将来の希望診療科について、32.4%が医学生・臨床研修開始前と違っていた。その理由は研修して興味がわいた（64.2%）が最も多く、以下、学問的に興味があった（39.6%）、やりがいがある（35.6%）、いい指導医がいた（28.3%）の順であった。結論：病院勤務医については、大学からの派遣を除けば、地元、病院のハード面・ソフト面の充実、人のつながりの 3 要素が、勤務病院を決める上で重要な要素と思われる。半数の勤務医が現在の医療機関で定年まで勤務を希望している。後期研修医について、研修施設の決定には、派遣など大学関連を除けば、研修病院の診療内容、指導体制の充実、地元が重要な要素と考えられる。また、診療科の選択には、学問的興味、研修による興味、やりがい、指導医の 4 項目が重要な要素であり、診療科の選択はほぼ後期研修の時に行われている。

A. 研究目的

以前は、臨床研修医の多くは、大学の医局に所属し、大学附属病院など関連の医療機関で研修を行っていた。しかし、平成 15 年に新医師臨床研修制度が導入された後は、大学以外の臨床研修指定病院を選択する研修医が急増した。この影響を受けて、特に地方においては、地元大学の医師数が減り、大学附属病院を維持するために、大学から派遣されていた常勤医師の引き上げが大きな社会問題となった。このことが、今日、医師確保の視点において、地域医療が深刻な状態となった要因の一つであることは間違いない。

これは、新医師臨床研修制度導入により、医師の勤務先選択や将来の希望など、いわゆる医師自身のキャリアに対する考え方は大きく変わったことが要因と推測される。医師確保の対策を講じる上で、この要因を知ることは重要と考える。そこで、本研究は、病院勤務医および後期研修医の勤務先病院の選択理由ならびに将来の希望を明らかにすることを目的に実施した。

B. 研究方法

研究デザインは観察研究（質問紙調査）である。調査対象は、病院勤務医および後期研修医である。病院勤務医は、病院に勤務する卒業後 5 年目以上の全ての常勤勤務医師を対象にした。ただし、病院管理者、病院長、副（病）院長、研修医、歯科医（口腔外科を含む）は除外した。また、後期研修については、臨床研修指定病院（厚生労働省指定）に所属する卒業後 3 または 4 年目の医師を対象にした。ただし、大学院生を除外した。

質問紙の送付については、病院勤務医は、厚生労働省から日本全国の病院リストを入手し、全 8,874 病院から 5% ランダム抽出にて 439 施設を選択し、そのうち大学病院を除いた 432 施設に質問票を郵送した。後期研修は、平成 19 年度に、マッチングに参加した全 1,090 臨床研修指定病院から 25% ランダム抽出を行い、281 施設へ質問票を郵送した。施設リストは医師臨床研修マッ

グ協議会の Web (<http://www.jrmp.jp/>) から入手した。

後期研修医、病院勤務医ともに、対象施設の施設長宛に質問票を郵送し、施設長を通じて、各対象者に質問票が配布・回収される形式をとった。督促については、返送がない場合は 2 回を限度として書面にて督促を行った。

調査項目については、病院勤務医は、基本情報（年齢、性別、出身地、婚姻状況、学歴、学位・認定医の有無）、現在の勤務医療機関・現在の勤務内容・将来の希望に関する内容とした。また、後期研修医は、基本情報（性別、出身地、出身大学、学歴、両親の職業）、後期研修・初期研修・学生教育・将来の希望に関する内容とした。両者ともに、別途、医療機関の情報として、所属医療機関所在地、医療機関概要（診療科、病床数など）、医師数を施設長から入手した。

解析については、各項目の単純集計を行った。表作成に Excel 2007 software (Microsoft Inc.) を、統計ソフトは SPSS16.0 software (SPSS Inc.) を使用した。

（倫理面への配慮）

本研究は自治医科大学疫学研究倫理審査委員会の承認を得た。本研究の趣旨や個人情報の取り扱いについては、質問票に回答したことで同意を得たと判断した。なお、本研究では個人名や住所など個人を同定できる情報は一切聴取していないため、質問票回収後は、回答者の同定は不可能である。

C. 研究結果

1. 病院勤務医調査

1) 回答状況

全 432 対象施設のうち 132 施設から回答があった（回答率 30.6%）。また、回答病院勤務医師数は 1,714 名であった。

2) 基本情報

(1) 医療機関（表 1）

回答医療機関の概要は、平均病床数 188、平均

診療科目数9であった。診療実績は、一日平均入院患者数・外来患者数、それぞれ156名・256名であった。医師数は、平均常勤医師数16名、平均非常勤医師数13名、平均臨床研修医師数2名、平均後期研修医師数2名であった。

新医師臨床研修制度導入後の常勤医師数の状況は、58%が「ほぼ不変」で最も多く、次いで20%が「減少した」と回答した。同制度について、60%が「制度の一部改正が必要」と回答し、21%が「制度の廃止を望む」に対して、14%が「現状のままでの制度の継続を望む」と回答した。

(2) 病院勤務医 (表2、表3)

回答病院勤務医師について、年齢は40歳代が36%で最も多く、男性(85%)が多数を占めた。取得済み資格は、認定・専門医が77%で最多であった。出身地は、都市部が59%と半数を越えた。現在の専門診療科は内科(18%)が最も多く、以下、精神科、整形外科、外科、小児科の順で多かった。専門性については、どちらかという専門医も加えると専門医と回答して者が76.3%で、プライマリ・ケア医の回答を大きく上回った。

医師の家族については、配偶者と子どもは、それぞれ83%と74%であった。同居家族は配偶者が71%と最多で、次いで未就学児27%、小学生24%であった。

3) 現在の勤務について

(1) 現在の勤務先医療機関 (表4)

現在の勤務医療機関について、66%が臨床研修指定病院と回答した。所在地は72%がどちらかという都市部も含めて都市部と答えた。また勤務医療機関へは、56.5%が大学からの派遣であった。一方で、42%が「派遣でない」と回答した。

勤務医療機関の選択理由としては、「実家に近いから」が12%と最多で、続いて、派遣(10.3%)、病院の施設・設備が充実(8.8%)、診療体制が充実(7.9%)、先輩等に誘われた(7.7%)の順で続いた。

(2) 現在の勤務内容 (表5)

現在の勤務内容は、勤務時間(1日)は「9~10時間」、勤務日数(1週間)は「6日」、当直回数

(1ヶ月)は「3~4回」、昼食時間(1日)は「30分未満」がそれぞれ最多であった。また、研修日については、72.4%が「研修日なし」と回答した。

(3) 意欲および満足度

現在の仕事への意欲と職場への満足度について、Visual Analogue Scale (0~100点)を用いて尋ねた。意欲と満足度の平均(SD)は、それぞれ65.6(20.7)点と55.9(24.5)点であった。

(4) 日常生活および職場に対する意見 (表6)

日常生活について、「近所との付き合い」、や「子供の教育」などほとんどの項目で、肯定的な回答が半数を超えた。しかし、「休日の数」に関しては肯定的・否定的回答がほぼ同じ割合であった。

職場については、8割近くの医師が「やりがいがある」と答えた。しかし、「生涯教育の機会が少ない」、「多忙である」、「スタッフは充足していない」とする意見がいずれも半数を超えた。

提供する医療については、「専門領域」や「幅広い医療」、「患者が満足する医療」についてはいずれも半数以上の医師が満足との回答であった。しかし、「初期救急医療」および「在宅診療」について不満とする意見が多数を占めた。

5) その他 (表7)

将来については、48%が「引退するまで現在の医療機関に勤務したい」と回答した。また勤務継続については、「分からない」が36%で最も多く、次いで「1年未満」および「1~2年」が21%であった。将来の希望する勤務形態については、「病院勤務医」が53%と最多であった。

新医師臨床研修制度については、46%が「制度の一部改正が必要である」と答え、27%は「制度の廃止を望む」と回答し、70%を超える医師が現状の制度に対して異を唱える結果となった。

2. 後期研修医調査

1) 回答状況

全281対象施設のうち137施設から回答があった(回答率48.8%)。また、回答後期研修医数は1,222名であった。

2) 基本情報

(1) 医療機関 (表 8)

回答医療機関の概要は、平均病床数 484、平均診療科目数 20 であった。診療実績は、一日平均入院患者数・外来患者数、それぞれ 387 名・915 名であった。医師数は、平均常勤医師数 75 名、平均非常勤医師数 30 名、平均臨床研修医師数 15 名、平均後期研修医師数 13 名であった。

新医師臨床研修制度導入後の常勤医師数の状況は、58%が「ほぼ不変」で最多、次いで 20%が「減少した」と回答した。同制度について、60%が「制度の一部改正が必要」と回答し、21%が「制度の廃止を望む」に対して、14%が「現状のままでの制度の継続を望む」と回答した。

新医師臨床研修制度導入後の常勤医師数の状況は、36%が「わずかに増加した」も含めて「増加した」と答え、30%が「ほぼ不変」と回答した。同制度について、73%が「制度の一部改正が必要」と多数を占めた。一方、「制度の廃止を望む」は 3%であった。

(2) 後期研修医 (表 9、表 10)

年齢は、29 歳以下が 74%と最多であった。性別は男性(69%)が多数を占めた。卒後年数は、卒後 3 年と 4 年目がほぼ同数であった。出身地は、都市部(52%)が最も多かった。現在の専門診療科は、内科が 18%と最多で、次いで、小児科(9%)、外科(8%)の順であった。選択の理由は、73%が学問的に興味があると回答し、次いで、やりがいがある(70%)、いい指導医がいた(38%)であった。また、専門性は、どちらかというと専門医を含めると専門医と回答した者が 71%で、プライマリ・ケア医の回答を大きく上回った。

(2) 対象者家族 (表 11)

回答後期研修医の家族については、配偶者と子供について、それぞれ 35%、15%がありと回答した。両親の職業について、両親ともに医療従事者以外が半数を超えた。しかし、父親に限れば 26.9%が医師であり、その勤務形態としては開業医が多数を占めた。

3) 後期研修

(1) 研修先医療機関 (表 12)

研修先医療機関は、69%が大学病院以外の臨床研修指定病院であった。また、その選択理由については、「症例が多いから」が 51%と最多で、以下、「熱心な指導医がいるから」(24%)、「指導体制が充実しているから」(21%)の順であった。研修先が臨床研修を受けた病院と違う者が 52%であった。違う理由は必要な症例・手技の経験数が不十分だったが 22.6%で最多であった。

回答者の内、78%が「ロールモデルがいる」と回答している。後期研修全般の満足度(VAS スコア、平均(SD))は、68.0(21.0)であった。

(2) 日常生活および職場に対する意見 (表 13)

日常生活については、いずれの項目においても肯定的な回答が半数を超えた。また職場についても、どちらかというとも含めて「職場が多忙である」は 88.3%であったが、それ以外の項目は肯定的な回答が半数を超えた。

4) 臨床研修(初期研修)(表 14)

臨床研修病院は、大学病院以外の臨床研修指定病院が 58.3%で、大学病院を上回った。地域保健研修の研修先がへき地と回答した者は 25.9%であった。ロールモデルについては、79.5%がいたと回答した。また臨床研修の全般の満足度(VAS スコア、平均(SD))は、61.6(24.0)であった。

新医師臨床研修制度については、48.3%が「現状の一部改正が必要である」と回答し、38.4%が「現状のままでの制度の継続を望む」と回答した。

5) 医学生時代 (表 15)

医学生時代にへき地医療現場での実習は 27.1%が経験していた。またロールモデルは 43.4%にいた。医学生の時に、どちらかというとも含めて専門医になりたいと 61.5%が回答した。医学教育に対する全般の満足度(VAS スコア、平均(SD))は、48.9(21.9)であった。

7) 将来について (表 16)

将来については 97%が臨床医を希望し、診療科としては内科が 19%と最多で、以下、小児科 9%、

外科 8%と続いた。

将来の専門性は、76.4%どちらかという専門医も含めて専門医を希望した。将来の希望がこれまでと違うのは 32.4%で、その理由は研修して興味があったが 64.2%で最多、次いで、学問的に興味があった(39.6%)、やりがいがある(35.6%)、いい指導医がいた(28.3%)の順であった。

将来の希望勤務医療機関は、大学病院以外の大病院が 37.8%で最多であった。また希望勤務地は、都市部とどちらかという都市部も含めて都市部が 83.2%であった。しかし、へき地での勤務希望は、43.1%がどちらかというとも含めて働いてみたいと回答した。

希望取得資格は、認定・専門医が 62.3%で最多であった。

D. 考察

1. 新医師臨床研修制度への意見

新医師臨床研修制度を、現状のまま継続を望む意見は、後期研修医(38.4%)が最も高く、以下、臨床研修指定病院の施設長(24.3%)、病院勤務医(21.9%)、病院の施設長(14.3%)の順であった。研修制度の影響にかかわらず、研修制度が始まって以来、病院において医師不足が深刻になっていることを反映した結果と思われる。

2. 専門性の認識

現在の専門性について、後期研修医の、どちらかという専門医も含めて専門医の回答は、学生、臨床研修、後期研修、将来の順で、61.5%、65.9%、70.8%、76.4%であった。このように一貫して、医学生から将来まで、一貫して専門医の回答が増えている。そして、これは、臨床研修等を通して、専門医志向を高めている可能性を示唆する。新医師臨床研修制度はプライマリ・ケアを強く意識して制度設計されていた。しかし、後期研修医の将来と病院勤務医の回答(76.3%)がほぼ一致していることから、プライマリ・ケア志向の醸成については十分な効果はもたらしていないと思われる。

3. 勤務医師の勤務形態と病院選択の理由

病院勤務医の約 4 割強が派遣でない形態で勤務した。その一方で半数強は大学からの派遣で、医師派遣を大学に依存している状況が伺える。

勤務している病院を選んだ理由の上位 10 位以内を検討すると、実家に近い(11.5%)と出身地に近い(6.5%)の回答が、5.5 人に 1 人の割合(18%)となり、いわゆる地元は病院選択に大きな要因であることが改めてわかった。その一方で、病院の施設・設備の充実(8.8%)、診療体制の充実(7.9%)、処遇・待遇の充実(7.4%)、病院の理念に賛同(5.9%)も上位を占めており、施設のハード面・ソフト面の充実も病院選択では重要な要素となっている。さらに、先輩等に誘われた(7.7%)、院長や管理者が魅力的(7.3%)、のように、人のつながりも病院選択には欠かせない要因であった。まとめると、派遣を除けば、地元、病院のハード面・ソフト面の充実、人のつながりの 3 要素が、勤務病院を決める上で重要な要素と思われる。

4. 勤務実態と意見

病院勤務医の労働時間(1日)は、8時間以下は 5 人に 1 人弱の割合で、逆に 11 時間以上は 3 人に 1 人強の割合であった。また 2 人に 1 人強が週 6 日～7 日間労働していた。そして、4 人に 1 人強が月に 1 回以上の当直をしている。昼食時間も 2 人に 1 人強が 30 分未満で、昼食時間がない者(8.4%)もいた。このように、病院勤務医師の過重労働の実態が浮き彫りになった。

しかし、職場の多忙さや休日の数以外は、日常生活の現状について多くの病院勤務医は肯定的な意見であった。とくに、8 割弱の医師が、職場にやりがいと感じており、過重労働の中にも、やりがいをもって献身的に働いていることが理解される。

今後の勤務継続については、約 4 割が 2 年以下と回答している。これは、半数以上の病院勤務医が大学からの派遣であることが要因と考えられ

る。2年以下に「分からない」を加えると約4分の3となり、病院の医師確保の状況が非常に不安定であることが分かる。

5. 後期研修医の診療科選択

後期研修医の現在の診療科の上位3つは、内科(17.5%)、小児科(9.1%)、外科(7.8%)であった。また、将来(15年後程度)の診療科も上位3つは、内科(18.7%)、小児科(9.1%)、外科(7.7%)で、現在の診療科とほぼ同じであった。後期研修の時点で、専門とする診療科はほぼ決まっていた。

診療科選択の理由は、学問的理由(72.6%)とやりがい(69.5%)が圧倒的に多く、次いでいい指導医がいた(37.9%)であった。これに加えて、医学生や臨床研修開始時点と将来の診療科が異なる理由について、3人に1人が研修して興味がわいたと回答している。これらから、後期研修医の診療科選択において、学問的興味、研修による興味、やりがい、指導医の4項目が重要な要素であることがわかった。

6. 後期研修医の研修病院選択

後期研修先の臨床研修病院は、臨床研修指定病院(大学病院以外)で7割弱であった。臨床研修では6割弱であったことから、約1割増えたことになる。これは、研修病院選択理由で約1割の後期研修医が大学医局からの派遣と回答していることから、このことが増加の要因と考えられる。

後期研修先医療機関の選択理由について、2人に1人が症例の多さを挙げている。また、病院の施設・設備が充実も上位に位置していることから、病院の診療内容が大きな要因となっていることが理解される。また、熱心な指導医がいる、指導体制が充実している、魅力的な医師がいるといった研修病院の指導医や指導体制も後期研修医は病院選択において重要と考えている。また実家に近いも上位の回答であった。そして、大学病院などと他病院と後期研修の連携、出身大学、大学医

局からの派遣など大学関連の項目も上位であった。まとめると、後期研修医の研修病院選択の重要な要因として、研修病院の診療内容(症例の多さ、施設・設備の充実)、指導体制の充実、地元、大学関連の4項目があげられる。地元と大学関連以外は、医療機関のソフト面を重視している傾向が伺える。

E. 結論

病院勤務医について、大学からの派遣を除けば、地元、病院のハード面・ソフト面の充実、人のつながりの3要素が、勤務病院を決める上で重要な要素と思われる。大学からの派遣が半数以上であることから、今後の継続勤務は約4割が2年以下と回答した。

後期研修医について、研修病院選択の要因として、大学からの派遣など大学関連を除けば、研修病院の診療内容、指導体制の充実、地元が重要な要素と考えられる。診療科の選択に関しては、学問的興味、研修による興味、やりがい、指導医の4項目が重要な要素であり、診療科の選択はほぼ後期研修の時にされている。

F. 健康危険情報 なし

G. 研究発表 1. 論文発表 なし 2. 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。) 1. 特許取得 なし 2. 実用新案登録 なし 3. その他 なし

表1. 勤務医調査の医療機関基本情報(N = 132)

	No.	(%)*
病院概要, mean (SD)		
病床数	188.3	(146.8)
診療科数	8.6	(6.0)
診療実績, mean (SD)		
1日平均入院患者数	155.5	(133.3)
1日平均外来患者数	255.8	(298.3)
医師数, mean (SD)		
常勤医師数	16.4	(23.3)
非常勤医師数	13	(16.7)
臨床研修医師数	1.9	(4.5)
後期研修医師数	1.8	(6.0)
認定・専門医師数	11.7	(18.6)
新医師臨床研修制度導入後の常勤医師数状況		
増加した	4	(3.1)
わずかに増加した	16	(12.4)
ほぼ不変	75	(58.1)
わずかに減少した	8	(6.2)
減少した	26	(20.2)
N/A	3	
新医師臨床研修制度について		
現状のままでの制度の継続を望む	18	(14.3)
制度の一部改正が必要である	76	(60.3)
制度の廃止を望む	26	(20.6)
その他	6	(4.8)
N/A	6	

*注意書き以外

表2. 勤務医基本情報 (N = 1714)

	No.	(%)*
年齢		
20歳代	61	(3.6)
30歳代	546	(31.9)
40歳代	621	(36.3)
50歳代	340	(19.9)
60歳代	141	(8.3)
N/A	5	
性別		
男性	1407	(85.4)
N/A	67	
取得済み資格		
学位	890	(51.9)
認定・専門医	1311	(76.5)
産業医	281	(16.4)
その他	99	(5.8)
出身地		
どちらかというと都市部	993	(58.9)
どちらともいえない	377	(22.4)
どちらかというとはき地	316	(18.7)
N/A	28	
出身大学		
国立	1051	(61.5)
公立	238	(13.9)
私立	419	(24.5)
N/A	6	
卒業年次, mean (SD), y	1988.4	(11.4)
現在の専門		
内科	303	(18.4)
精神科	158	(9.6)
整形外科	136	(8.2)
外科	121	(7.3)
小児科	108	(6.5)
循環器科	78	(4.7)
消化器科 (胃腸科)	77	(4.7)
産婦人科	66	(4.0)
泌尿器科	64	(3.9)
放射線科	58	(3.5)
麻酔科	57	(3.5)
耳鼻咽喉科	53	(3.2)
脳神経外科	50	(3.0)
消化器外科	48	(2.9)
眼科	45	(2.7)
呼吸器科	40	(2.4)
皮膚科	30	(1.8)
その他	157	(9.5)
N/A	65	
現在の専門性		
専門医	715	(42.7)
どちらかというと専門医	563	(33.6)
どちらかというとプライマリ・ケア医	317	(18.9)
プライマリ・ケア医	80	(4.8)
N/A	39	
へき地医療機関での勤務経験		
ある	548	(32.9)
N/A	49	

*注意書き以外